

Düsseldorf

デュッセルドルフ・エコシステムの特徴

- ◆デュッセルドルフを州都とするノルトライン・ヴェストファーレン州は、ルール工業地域の中心であり、ドイツ最大の経済規模を有する（ドイツGDPの2割）。
- ◆地域には、化学品・薬品大手のバイエル（Bayer）やエボニックインダストリーズ（Evonik Industries）、国内電力最大手のエーオン（E.ON）やRWEなど、ドイツの主要大企業が本拠地を構えてスタートアップとの協業プログラムを展開しているほか、「Hidden Champions（隠れたチャンピオン）」と呼ばれる国際競争力の高い中堅・中小企業も多い。
- ◆更にドイツ最高峰の理系大学の一つであるアーヘン工科大学やフラウンホーファー研究機構（IoT分野等）の研究教育機関も所在し、強固な産学連携によるイノベーション創出が進められている。
- ◆デュッセルドルフ発のユニコーン企業としてはホテル検索サイトプラットフォームを展開するトリバゴ（Trivago）が有名だが、上記のドイツ企業の集積を背景にしたBtoBビジネスのスタートアップが多い。
- ◆毎年2月に開催されるバーチャルリアリティーや拡張現実、ドローン、スマートデバイス、ロボット、IoT、サイバーセキュリティ分野のスタートアップイベントDigital Demodayは、日本のスタートアップ企業やテック系のドイツのスタートアップを探す企業にとって、企業探しの最高の機会といえる。
- ◆また、11月にデュッセルドルフ市で開催される欧州最大の医療機器見本市MEDICA／COMPAMED、2月にエッセン市で開催されるドイツ最大のエネルギー産業見本市E-Worldでもスタートアップの出展ゾーンが設けられており、出展してドイツ企業とのビジネス開拓に挑む日本のスタートアップも出てきている。

デュッセルドルフ地域のスタートアップエコシステムの詳細は下記ウェブサイトも参照ください。

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/special/2018/0602/0eb0c42ba643b08e.html>

提携先

Digital Innovation Hub Düsseldorf/Rheinland GmbH

デジタル・イノベーション・ハブ デュッセルドルフ／ラインラント <https://www.digihub.de/>

- ・デュッセルドルフおよびNRW州最大のスタートアップ・アクセラレーター。
- ・デュッセルドルフ市のほか、ドイツ流通最大手メトロ、英国ボーダフォン、ルネサスなどドイツ国内外50を超える企業・機関がスポンサーとなっている。

支援メニュー

- ・事業戦略立案等に関するメンタリング
- ・現地企業、VCとの面談アポイントメント

※ジェトロは、Digital Innovation Hubのほかデュッセルドルフ市とも連携して本事業を活用する日本のスタートアップ企業を支援します。



色彩豊かな欧州のスタートアップエコシステム

ジェトロ・グローバルアクセラレーションハブ設置都市



日系スタートアップの現地事業展開および、日系企業の現地スタートアップとの協業・連携活動を個別にお手伝いします。

www.jetro.go.jp/services/jhub/

ロンドン

欧州最大のエコシステム。2020年の投資額は106億ドル（都市別で世界4位）。投資先のTop3はフィンテック、ヘルステック、エンタープライズ向けサービス。

パリ

スタートアップ支援策フレンドシップと豊富な理系人材を背景にAI/ディープテックに強み。充実した研究開発税制により近年グローバル企業によるR&D投資も盛ん。

ヘルシンキ

環境問題の解決やQOL向上に対する官民の高い関心と推進力がローカルのみならずグローバルでも競争力を持つスタートアップを創出。SLUSHの開催地。

ベルリン

ドイツ最大のエコシステム。成長領域はフィンテック、AI・データ、IoT、グリーンテック、ヘルス・バイオテックなど。外国人による起業が7割を占め、英語でビジネスが可能。

デュッセルドルフ

独最大の経済州の州都。エネルギー、機械・自動車、IT分野の大手・中堅・スタートアップが集積。Fraunhofer IPT、アーヘン工科大学では5G、IoT研究が盛ん。

ミュンヘン

BtoBのスタートアップが集積。BMW、シーメンスなどの自動車・機械関連分野の協業・潜在顧客が存在。ミュンヘン工科大学等からのスピノフも多い。

色彩豊かな欧州のスタートアップエコシステム

その他注目のスタートアップエコシステム

アムステルダム

欧州各市場へのアクセスが良く、英語話者が多い。Uber、Netflix、Tesla等米企業が、欧州事業拠点として同地を選択。フィンテック、スマートシティに強み。

ダブリン

英語圏、若い労働力、低廉な法人税を背景に、GAFAも開発拠点を構える。アイルランドの人口一人当たりのスタートアップ投資額は英国をしのぐ。

バルセロナ

南欧最大、投資件数で欧州5位のエコシステム。スマートシティやバイオ技術に強み。手頃な人件費と質の高い生活環境も魅力。携帯見本市「MWC」の開催地。

リスボン

ウェブサミット誘致を追い風に近年急速に発展。タイムラー、グーグル、富士通など外資デジタル開発拠点設置も相次ぐ。欧州の中でもコストメリット、人材等に定評。

チューリッヒ

連邦工科大学（ETH、EPFL）から輩出される人材と技術力が強み。スイス全体では伝統的に強い金融、医薬品産業に加え、近年はICTやフードテックも台頭。

ストックホルム

北欧トップのVC投資額を誇る。医学分野で著名なカロリンスカ研究所、5Gインフラをリードする通信大手のエリクソン等が立地。都市別ユニコーン数は欧州2位。

タリン（エストニア）

エストニアのスタートアップ数は人口10万人あたり85社と欧州で最も多い。法人設立から運営まで全てオンラインで可能な上、法人税が配当のみにかかる制度が特徴。

ビリニウス（リトアニア）

近年海外からの直接投資が増える新興のエコシステム。欧州のフィンテックのハブの座を狙い、中央銀行もフィンテックの成長を後押しする政策をとっている。

コペンハーゲン

近年、フィンテック、フードテック、デジタルヘルス等でスタートアップが成長。欧州のバイオテッククラスターとして名高いメディコンバレーも広がる。

ミラノ

ミラノのあるロンバルディア州を中心に、近年企業数・投資額ともに拡大中。企業向けサービス（R&DやITサービスなど）が多い。